

未来を見つめる福生



書道で文部大臣賞を受賞した

橋戸瑞穂さん (15歳)

福生市は基地があるということでは知られていますが、都心へ行くにも、山や川に遊びに行くにも一時間以内に行ける、環境の良い、住みやすい町です。しかし、将来の福生市は、市内に多くの外国人もいますので、もっとにぎやかな横浜と渋谷を組み合わせたような国際的な町になってほしいと思います。また、渋谷のような町というのは、もっと人のたくさんいるにぎやかな町ということです。ですが、若い人だけが集まり、楽しんでいるのではなく、子供からお年寄りの方まで安心して楽しめる町であってほしいのです。しかし、福生市には横田基地や多摩川という大きな川もあるので面積はあまり広くありませんから、日本中のどこをさがしても福生にしかないというような特徴のあるものをつくることによって有名な町になってほしいと思います。それには今10代である私たちが大人になった時にももちろん努力をしなければいけません。環境の良い、住みやすい

特徴ある町」ということを私たちがなりにいつも考え、忘れずにいることが大切だと思います。



20歳になって

佐藤克年さん (20歳)

福生市の未来を考えるうえでは、「国際化」を進めることが重要だと思います。

過去においては、異文化を持つ横田基地の存在が余りにも身近かすぎてか、その価値の重要性を見過し、部分的な交流があっても広い意味での交流には今一步という感じではなかったかと思っています。

今後の国際社会を考える時、「日本人」という意識だけで枠を作ることなく、様々な人々とふれあうことによって、いろいろな状況に対応できる人間に成長していくことが必要だと思います。手をのばせば届く所で国際交流ができることを念頭におき、文化の交流を身をもって進めていかなければならないと思います。

将来、福生の市民と基地の人に限らず多くの国々の人々が、なんのへだたりもなく気軽に利用できるような「国際交流センター」が設置できたら素晴らしいことだと思います。内容や運営については、現在福生市で行われている既存の事業を基礎にしながらも、あらゆる国の人とのコミュニケーションを図ることを最大の目的に、楽しく独創的なものをつくり出すことができたらと思います。



福生青年会議所理事長

石井 勇さん (38歳)

「福生は、どんな町」と問われると、誰もが「横田基地のある町」と答える。横田基地があることの賛否は、別にしても、横田基地は、福生市の代名詞と言っても過言ではありません。しかし、私達市民にとって基地との関連(交流)は、非常に薄いのではないのでしょうか。かつて福生の商店街の繁栄の裏側には、この横田基地(アメリカ)の影響も大でありました。が、今日では、商店街ですら一部を除いては基地を背景には



まちの未来・私たちの未来

考えていないように思われます。折角の環境をマイナス指向するのでなくプラス指向にしていくことが大事です。

今後の町を考えた場合、その地域特性を重視し、他に類を見ない町となっていくことが必要です。福生市は、この横田基地のイメージ（国際的感覚）を取り入れた「国際都市的・福生」があります。国際的都市とは、国際都市のような大規模のものでなく、国際的感覚が養える都市のことで、国際都市のミニチュア版です。先日、人口3万人のある町で、アメリカの大学を誘致することを決めた記事がありました。福生でも、このような国際的交流の場となるスクール等を誘致し、国際的都市となっていくことを切望しています。



郷土史研究家

立川愛雄さん(80歳)

福生に住んで四十年、健やかに“米寿”を迎えました。

高齢化が進み、今や人生八十年時代といわ、定年以後の人生を抜きにして、

人生や生涯は語れないといわれます。長い余生をいかに健やかに、いかに豊かな内容で生きるべきか、私のささやかな体験と反省は、まず健康でした。“高齢者事業団”に参加する。新しい仕事と、地域社会との交流を深め、仕事を通して生き甲斐のある人生を送ることです。豊かな蓄積の中からの発想を、若い人達に伝えてあげること、高齢者の最高の使命でしょう。

いま“生涯学習”という。老後の余暇は、健康のゆるす限りは、話し合い、学習など、それぞれの趣味や志向によるサークル活動に参加することです。老人相互のみでなく、世代間交流など、明治生まれの生き方も、若い人達に対して、ぜひ伝えるべきだと思います。

未来の福生市のためにも故郷に語り伝えられた、歴史、伝統などを、語りつぐべき“語りべ”としての使命をも銘ずべきでしょう。



熟年ひろば

加藤ヒサさん(64歳)

人に歴史がある様に町にも歴史があ

ります。明治の建物のあった片倉工場跡が、今整地されつつあります。明治の頃からの工場地内には玉川上水の分水が北から南に流れています。この分水をも生かした市民のいこいの場が生れることを願うものです。町は明るく、多摩川も、多くの人達の努力で、少しずつではありますが、清らかな水がよみがえり緑の多い町になろうとしています。日進月歩科学の発達で私達はいろいろと思恵を受けていますが、これらのものが争いの道具ともならない様願っています。健康で明るい毎日をおくりながら若い人達とともに21世紀の幕開けを待っていたいのです。

私は白梅分館で熟年ひろばのグループにお世話になっています。グループの全員が「新世紀に仲間入りできるように目標を持って頑張りましょう」と話し合っています。21世紀夜明けの世界のニュース、街のニュースを話し合うことができるのを楽しみに、また、市がますます発展するなかで、温かく思いやりのある多くの市民が育つことを念じています。

